教区新報 HOYOG

発行所 浄土真宗本願寺派 兵庫教区教務所
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目1番1号
（本願寺神戸別院内）
電話 神戸(078)341—5949(代)
〔編集〕教区基推委広報部

1992. 1. 53号

「道場整備への第一歩」

別院修正会で輪番あいさつ

一月一日午前七時より、恒例の神戸別院修正会が勤められた。

本堂で讃仏偈、別堂で正信偈行譜のお勤めの後御文章拝読。御流盃の儀では参詣者一同が龍谷盃につがれた清酒で乾杯、新年の挨拶をかわした。

土基輪番は年頭の挨拶で「昨年を振り返りますと、湾岸戦争に始まりましてソ連の大変革、バブル経済の崩壊、雲仙普賢岳の噴火など激動の一年であったと思います。年が改まりまして本年は、世界が調和をし平和が保たれていきますようにお互いに願わずにはおれないわけでございますし、またそうしたことを私達念仏者がお互いの役割として担いながら今年の一年を過ごさせていただきたいと思います。」と昨年を振り返ったあと、先人の詩を紹介しながら「縁あってこの娑婆に生まれさせていただいたわけでございますが、一体何の用事をしに生まれてきたんだろうか。そのことを聞かせていただき、ああそうだったとうなづかせていただいてこの一生を送らせていただくということこそ幸せな生涯であり、そして確かな人生を送ることになろうかと思います。私達もこうしてともに新たな年を迎えさせていただいたわけでありますが、まずもって最初に仏様の前に座らせていただき、南無阿弥陀仏と私にはたらいておってくださるその仏様のお声を聞かせていただき唱えさせていただくことから新年の第一歩を踏み出させていただくということが、何の用事をしに生まれてきたんだろうかを聞かせていただくことではないかとあじあわせていただくことであります」と述べ、この一年については「今年はこの別院を、法を聞き語り合う場として整備をさせていただくその第一歩を踏み出す年であろうかと思っております。そしてこのことが同時に子や孫にご法義を伝える役割を果たさせていただくことにもなると思うことでございます。

今年もお念仏ともども一年を今日から始めさせていただきたいと思うことでございます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます」と述べた。

参詣者の中には親子二代揃っての姿もみられ、顔見知りのお同行と「今年もよろしく」とにこやかに挨拶をかわしていた。

龍谷盃に清酒が注がれる

毎年十一月二十七日夜私の地区の真宗門徒は「お七夜」と称して小寄講ごとの報恩講を勤める。この地区には四つの同行組織があり、それぞれ「お七夜」を勤めている◆昔は、まず正信偈中拍子（現在の行譜）五十六億七千万の六首引でお勤めし、御文章、領解文をあげてから会食し長老を中心に法悦を語り、最後に後夜のお勤めが草譜三首引であげられて散会した。また毎月二十七日の夜には「お逮夜」と称して小寄講の常例法座が続けられている。それは何百年続いた行事であろうか◆近くの地区でも同行の会合は行われているが、二十七日を守るところは少ない。御法話のために住職を招待するようになり同行ごとに日を違えて勤めるようになったためであろう。そのため宗祖の報恩講であり、お逮夜の法座であることが忘れられてしまい自分の家の先祖の逮夜と誤られている◆講組織が今も残っているのは播州だけだとさえいわれるがその実態たるや。ああ！

（藤井　弘範）

教区だより　1・2月

14日(火)～16日(木)
別院常例法座　森田　智師　1時半
16日(木)
ご消息発布式　本　山
20日(月)
別院仏婦報恩講　1時半
21日(火)
ビハーラ実践活動研究会会員総会　3　時
22日(水)
寺婦連盟委員総会　10時半
22日(水)～23日(木)
教区ビハーラ担当者会　本　山
24日(金)
仏婦連盟委員総会　10時半
25日(土)
都市開教公開講演会　久堀　弘義師　江並教堂
30日(木)
第4期寺族婦人連続学習会（第2回）　10　時
31日(金)～2月1日(土)
第11回教区総代代表別院参拝研修会　別　院
1日(土)
第一土曜仏教講座「人生の旅」寺川幽芳師　1時半
3日(月)
連研検討部会
4日(火)～5日(水)
第12回教区総代代表別院参拝研修会　別　院
6日(木)～7日(金)
第13回教区総代代表別院参拝研修会　別　院
7日(金)
別院仏婦定例法座　藤岡　貞賢師　1時半
12日(水)～14日(金)
第5回寺族婦人聞法旅行　九　州

雨の中、相次いで団参

満堂だった別院報恩講

去る十一月二十七日～二十九日の三日間にわたり、例年のとおり神戸別院報恩講が厳修された。今回は教区内全組に法要出勤を依頼し、二十一組から四十七ケ寺のご出勤をいただいた。

中には毎年、乗用車やワゴン車で何十キロものお仏飯米を運んでいただく姿も見られ、別院報恩講がすっかり年中行事として定着している様子がうかがえた。

講師の藤野堯文師（東海教区桑名組教宗寺）は「報恩講も阿弥陀さまのお働きの場。その阿弥陀という働きを私達に明らかにお示しくださった方が親鸞聖人です」と八座の法要を通して報恩講の意味をていねいにお取り次ぎ。お同行もうなずきながら聴聞する姿が本堂のあちこちで見られた。

また、組・寺院単位の団体及び教化団体の団体参拝も年々増えてきており、二日目には雨にもかかわらず満堂のお参りとなった。団体参拝は次のとおり。

二十七日＝▽阪神東組仏教婦人会▽阪神北組勝福寺▽加古川組仏教婦人会▽加古川組金照寺

二十八日＝▽阪神東組仏教婦人会▽阪神北組光円寺仏教婦人会▽神戸東組専念寺仏教婦人会▽北摂組仏教婦人会▽北摂組明楽寺仏教壮年会▽加古川組仏教婦人会▽播磨東組妙覚寺▽姫路西組真宗寺▽網干組教連寺仏教婦人会▽氷上東組本明寺仏教壮年会

生前のご苦労を偲び謹んで敬弔の意を表します。（敬称略）

多可組正圓寺衆徒「教導院釋真正」	山本　真正	11月24日	30才
揖竜西組了福寺住職「定信院釋時味」	山本　時味	12月10日	75才
加古川組教照寺住職「浄敬院釋省史」	森本　省史	12月20日	70才

ビハーラ六期生参加しませんか

医療・福祉の現場で当面するさまざまな問題との関連で宗教者の果たすべき役割を探求し、さらには相手の要請にも応えるというビハーラ活動に積極的に関わっていく実践者の養成を目的として、本山（教育局）では第六期生の募集を行っている。

養成期間は二年間（平成四年四月～平成六年三月）で初年次は基本学習三回と実践学習一回、二年次は基本学習一回と実践学習三回を行う。応募資格は本派の僧侶・寺族・門信徒で年齢が二十歳以上六十五歳未満の人で、出願手続きには「ビハーラ活動についての所感」と題したレポートなどを提出、教務所長の推薦。締め切りは一月三十一日となっている。お問い合わせは教務所（担当岡本）まで。

「同朋」標語を募集

近畿同朋推進協議会では毎年各寺院へ同朋運動の推進を目的として、二種類のポスターを二枚配布させていただいております。

今年も標語を広く募集しますので、ふるって応募下さい。

◇同朋運動の推進を目的とするもので未発表のもの原則として二十字以内。

◇締切は二月二十日で教務所近同推事務局へ郵送下さい。採用作品には記念品を贈呈致します。尚、採用作品で語句の変更をさせていただく場合がありますのでご了解願います。

舞楽「採桑老（さいそうろ）」の一人者

神戸西組浄行寺住職 中村信之（なかむらのぶゆき）さん

私が雅楽の勉強を始めたのは中学一年生でした。最初は一つも面白くなかったのですが高校一年生のとき興味が湧いてきて恩師のもとで一生懸命勉強した結果先生のお力添えを得て「四天王寺楽所雅亮会」へ舞部の一員として昭和三十年四月に入会しました。

雅亮会へ入会して今日まで三十七年を経ておりますが「舞」一筋で頑張っています。その中で忘れ得ないことが数々あります。例えば海外では、昭和五十三年十月、三十三日間にわたるアメリカ（ニューヨーク・カーネギーホール）での公演、同五十六年八月ソウル市での公演、同六十一年六月、二十二日間にわたるヨーロッパ（西ドイツ・フランス・イギリス）公演。また国内ではもちろん、昭和四十一年の第一回雅亮会公演会への出演から、昨年十一月二十六日フェスティバルホールに於ての第二十五回公演会まで連続出演。特に第二十四回の「蘭陵王」（らんりょうおう）第二十五回の「採桑老」（さいそうろう）の一人舞台、私にとっては雅楽の道に入った最高の喜びです。

また、比叡山の根本中堂での「蘭陵王」の舞楽奉納ご開山様の修行なされた場所と想って感無量になりました。

その間、昭和五十九年六月に「南无の会」を発足し会長に、同六十二年二月には特別法務員の方々を招集して「清風会」を発足し、代表として毎月一回神戸別院で雅楽の練習を行っています。別院報恩講法要の附楽も蓮輪番の頃よりご依頼を受け、現在も清風会の皆様のご協力を得て出仕させていただいております。

今後も雅楽の道に精進いたす覚悟でございますのでご教導の程をお願いする次第でございます。

採桑老を舞う中村師

されど住職

網干組浄泉寺住職 小泉信（こいずみしん）さん

これだけ多くの特技を持つ人は少ないだろうと思われるほどで、高校時代の同級生とのロックバンド（教区仏青の年忘れヤング広場になる前にやってみる人である。特にウィンドサーフィンは、台風の時に御津の海にひとりで出ていくほどの腕前であるが、今はパラグライダー・小型飛行機などでも演奏経験あり）・スキー・スケートボード・ラジコン・ハム・ウィンドサーフィン・パラグライダー・小型飛行機などなど、話題なくて宮崎の航空大学を目指すが視力が問題でかなわず龍大へ進み、キャンパスでグライダーを見て「私にはこのクラブしかない」と入部。学生時代にグライダーの免許・教官免許、卒業後は小型飛行機の操縦免許を取り、現在はモーターグライダーの教官として高知空港、福井空港、岡山甲南空港などで飛び、龍大航空部の監督でもある。「二ケ月に一度は飛ばないと腕がにぶる」と語る。

先日は、自ら理事長を務める浄泉保育園フリーマーケットの宣伝に御津の上空をパラグライダーでふわり…。門徒さんの法事の席でも「あれはご院さんに違いないと思った」という話も出たとか。

「普通の人が見ることのできない景色を独占できるのがいい…」と空への憧れを語る小泉住職。布教使であった前々住職の後を継ぎ、得意のギターを生かした弾き語り法話や節談説教を現在勉強研究中。

「将来、飛行機で全国をまわる布教使になりたい」と夢を語る住職に対して、「墜ちないでくださいよ…」と妻である若坊守の智子さん。

（広報部）

高知空港で飛行後

夢は空飛ぶ布教使

穏やか豊岡教堂報恩講

門推研修で本音の討議

70回記

◆12月1日＝出石組住職寺族同朋講座を長専寺で◆仏青連盟委員会◆2日＝阪神東組住職寺族同朋講座を最光寺で。講師は杉本昭典師（北摂組光澤寺）◆2日～3日＝豊岡教堂報恩講に教務所長、教堂参勤の津川真澄師と例年通り豊岡市内の五ケ寺のご法中が出勤。講師は佐々木大観師（宍粟組西願寺）。二日の逮夜から三日のご満座まで四座の法要で、逮夜法要では教務所長が挨拶。佐々木師の法話に「日頃めったにうなずかん私が今日は深くうなずかせてもろた」と教堂役員の森田一さん。また、佐々木師は「お孫さんもお寺にお参りさせてあげてください」と、お同行に語りかけておられました。今年は例年になく暖かな報恩講で、二日間でのべ百七十名のお同行が参詣されました◆3日＝組巡教打合せ会を本山で。兵庫教区では、平成四年度九月三十日～十月二日の間に二組で実施の予定◆4日＝教区本願寺参与の集いを別院で。西脇正文師（揖竜西組超念寺）のご法話の後教化センター委員を囲んでの協議会。参与会の割り当てなどについての質問も◆5日＝別院仏婦研修旅行。二十名が参加して大通寺（大谷派長浜別院）、須賀谷温泉、長浜別院（本願寺派）へ◆6日＝教区総代別院参拝研修反省会・教化センター総務部会を別院で。第十回までの反省と今後の取り組みについて。来年度に予定されていた五回の研修会は日程を繰り上げて、一月三十一日～二月一日、二月四日～五日、二月六日～七日、二月十八日～十九日、二月二十日～二十一日に実施することになりました◆7日＝第一土曜仏教講座を別院で。講師は蓮清典師（龍谷大学事務局長）テーマは「道」。「教務所長をやめて以来、初めて寄せていただいた」と笑いながら蓮師。豊岡教堂の役員さん四名も聴聞に来られました◆9日～10日＝中央基推委員会総会を本山で。西脇正文師出向◆10日＝教務所長会を本山で◆11日＝仏婦常任委員会を別院で◆阪神西組住職寺族同朋講座を広宣寺で。講師は藤栄行信師（淡路組宣徳寺）◆12日＝連研検討部会を別院で。「連研のための研究会」開催について、第七期連研修了者大会開催について他。第七期連研報告書で寄せられた主催者の反省事項と今後の課題には、「私は絶対に日を選びます。長い時間をかけて日本人が守ってきたのだから、と強い調子で話された年配の男性。また、迷信など全く気にしない、死ねば無、良いことをしていれば気にすることはないと淡々と話される若い女性。てきぱきと司会される女性等々、前途多難の感じですがこんな本音の話し合いから本物の推進員が生まれるものと期待して我々講師も勉強して頑張るつもりです」「新しい研修読本をどのように進めていくかの研修をまず寺族がやらなければならない。寺門の将来に対する危機感を持たねばならない」など各組の具体的な課題が多数あり、今後の方向を模索する中で解決に向けての取り組みがなされている◆13日＝研修指導員部会を別院で◆三ノ宮・ギャラリーさんちかでの「やさしいから人なんです展」に担当者出席◆寺族婦人連続学習会打合せ◆14日～15日＝仏青研修会を別院で。講師の西脇修師より「仏青ってなあに」というテーマで、現代社会の問題をふまえながら今の仏青や宗教に何が求められているかをわかりやすくお話いただいた。その後年忘れヤング広場では持ち寄り鍋大会やプレゼント交換で楽しいひとときを過ごした。中には寝る時間も惜しんで仏青の今後を語り合ったり、思い出深い研修会だった◆14日～16日＝別院常例法座。講師は藤谷俊雄師（氷上東組如来寺）◆16日＝組長ブロック長会を別院で。総代別院参拝研修会他について◆17日～18日＝第三連区基幹運動研修協議会を和歌山で。教区基推委から森田智・藤野昌俊・松島法城の各師、教務所長、相談員が出席。来年度宗門は僧侶研修を主体として取り組み「安芸・備後の同朋三者懇」の取り組みの姿勢に学ぶ方向が示された◆18日＝ビハーラ推進部会員とビハーラ実践活動研究会会員が宍粟郡一宮町の特別養護老人ホームまどか園を施設見学。上田順雄理事長・上田芳史園長（宍粟組明願寺）とビハーラ活動の取り組みについて協議◆京阪神都市開教本部会議を津村別院で◆19日＝第四期寺族婦人連続学習会（第一回）を別院で。四十六名が参加。分散会のテーマは「私にとってのお釈迦さま」。花まつりと甘茶の思い出は皆さん共通のようですが、中には「幸福すぎてお釈迦さまとの出会いを感じない」という声もあったとか…◆20日＝総代会役員会を別院で◆矯正教化連盟研修会を別院で。各施設の状況をふまえての研究協議◆青僧会役員会を別院で◆21日～22日＝スカウト仏教章取得講習会を別院で。中学一年～大学二年まで十七名のスカウト達が参加。真宗教義・勤行と讃歌・仏教章と仏旗などみっちりのプログラムで初日の夜は十時まで講義。おつかれさま◆25日＝年末組長会を別院で。総代一泊研修、組連研・同朋講座状況報告、「橋のない川」のチケット頒布、組巡教他について。終了後忘年会◆27日＝多紀組住職寺族同朋講座を光専寺で。講師は和田智浄師（揖竜東組源徳寺）